

チリ ブドウシーズンが始まり、輸出量の64%が新品種に

FreshFruitProtal 2024年1月29日

フルタス・デ・チリ(チリ果実輸出業者協会、旧略称ASOEX)の第3次推計では、この2023-24年度シーズンに6,200万箱以上の生食用ブドウが国際市場に出荷される見込みである。(1箱は18ポンド(約8.2kg))

この数字は前年比3.3%増で、昨シーズンの出荷量には天候不順やその他の要因が影響を与えている。

フルタス・デ・チリのイバン・マランビオ会長は、新しい推計値は同協会の生食用ブドウ委員会が昨年11月に発表した第2次推計値に比べて1.9%少ないと述べている。

同会長は、「ブドウの総輸出量の64%を新品種が占めると予想される。これは、50%程度であった昨シーズンから大幅に増加しており、市場の期待に応えるブドウを栽培しようとするセクターの努力を反映している。また、それらの果実も各地域の生産条件によりよく適応している」と言う。

生食用ブドウ委員会のコーディネーターであるイグナシオ・カバジェロ氏は、「新品種の増加は、我々が委員会として提案した生産と輸出の成長という目標に沿ったものである。当委員会の主要市場は引き続き北米で、総出荷量の57%を占め、50%であった昨シーズンよりも増加した」と説明する。

カバジェロ氏は、生食用ブドウの新品種の輸出量は3,966万5,392箱と予測され、次いで従来からの品種が1,306万6,520箱、レッドグローブが972万9,152箱と予測されると付言した。

最も増加が見られる赤ブドウの新品種は、キャンディハーツ、ジャックサルート及びスイートセレブレーションである。白ブドウでは、オータムクリスプ、スイートグローブ、コットンキャンディが目立つ。黒ブドウでは、スイートフェイバーズ、セーブル、ミッドナイトビューティー及びスイートサファイアである。

赤ブドウ品種の総出荷量は2,425万7,786箱で、チリ産生食用ブドウの中で最も多く、次いで白ブドウが2,252万3,428箱、レッドグローブが972万9,152箱、黒ブドウが595万703箱と予想されている。

ニュージーランド リンゴとナシの収穫量は回復の予測

PRODUCE PLUS 2024年1月29日

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAPI)の今年の収穫量予測では、国内の総生産量は2022年の収穫量を12%上回り、2023年のサイクロン「ガブリエル」による大きな被害から回復すると見られる。

輸出量は2,120万箱(18kg/箱)すなわち38万2千トンと推定され、果実は優れたサイズ、色、食味、風味を有することが期待されている。また、果実の貯蔵性を高める乾物重の増加も見込まれる。

NZAPIのカレン・モリッシュ会長は、この数年はコロナ禍とサイクロン「ガブリエル」による経済的損失で信じられないほど厳しかったが、その後に得られた好ましい予測は、ほぼ完璧な生育条件と生産者の懸命な努力の組み合わせによるものだと述べた。(以下、同氏の発言)

「すべての産地で気象条件が素晴らしく、リンゴとナシが必要とする暖かく雨の少ない天候となっている。」

「気象条件も素晴らしいが、今シーズン予想される成功はハードワークの賜物だ。生産者は毎シーズン懸命に働いているが、サイクロン「ガブリエル」の影響を受けた人々にとってこの1年は厳しい年であり、また、まだ回復途上の人々にとっては厳しい年が続いている。」

「多くの生産者が果樹園を泥の中から掘り出さなければならなかった。1年前の我々の状況を考えれば、現状は驚くべきものである。リンゴの木は回復力があることを証明しており、当協会の生産者も同様である。」

執筆者: ブリー・カッジャティ